

人前で話すときに気を付けるべきことについて特集している番組で、効果的な伝え方として、親しい人に話し掛けるような言葉遣いや、感情豊かであることなどが大切であると説いていました。

人前、特に多くの人前で話すことが苦手な人は少なくないものと思われまます。私もそうですが、この解説を聞いて少し驚きました。大勢の前で、実は親しい人に話すような親しさが重要であるとは…そして、ほっとしました。少人数の親しい会話が、実は人前で話すときの基本であるということではないでしょうか。それならば、自分にもできそうな気がしてきます。ちよっとした立ち話、友達のおしゃべり…これらは人前で話すことの訓練でもあるということになります。

未来を担う世代に求められているのは、世界の人々と交流し共に生きる力です。世界規模のコミュニケーション能力が求められていると言ったことができるかもしれません。人権の問題も、コミュニケーション不足や行き違いから起こることが少なくありません。けれども今、子どもたちに、そのコミュニケーションの力が育ちにくいことが問題となっています。核家

「コミュニケーション能力を養うとは？」

族で家族同士が会話する機会もあまりなく、子どもはゲームなどによる独り遊びで時間を過ごしがちなことなどの事情が背景にあります。現代に適したコミュニケーション能力の磨き方はないものでしょうか？

保育園に通い出すと、急に言葉が増えるという話を聞きます。図書館などの読み聞かせの催しも良い機会ではないでしょうか。家庭の中でも、短くともゆっくりと思いを通じ合わせる時間が持てる状況は違ってくると思います。一人と一人、あるいは少人数の会話ややりとりが、実はコミュニケーションの基本であること、そういうことは言われてみれば当たり前のことかもしれません。けれどもその大切なことを大事なことでして日々生活できているだろうか、と思います。皆さんはいかがでしょうか。日々触れ合う、一人一人ときちんと向き合い、意思疎通していくこと。その延長線上に、子どものコミュニケーション能力の育成や人権尊重、そして世界の平和もあるのでは…と思う初秋です。

問い合わせ

人権啓発広報委員会

(880・6569)